

入院患者にとってのカーテンの役割を考える

11階西 ○長谷川伸子 大塚 大日方 千代森 川本

I はじめに

小坂橋は「人は安全で快適な生活空間を必要とし、そこでの安定的な生活の営みが展開されることを求めるものである。」と言っている。

入院患者は「病院」という一種の集団の中での生活を余儀なくされているが、果して入院患者は快適な生活空間を確保できているのだろうか。

「病室のベッド周囲のカーテン」(以下「カーテン」と記す)は、患者にとって、どのような意味を持ち、また、どのような役割を果たしているのだろうか。

そこで私達は、入院患者の生活空間である病室の一部のカーテンに焦点を置き、患者にカーテンの使用方法についてのアンケートを実施した。そこから患者にとってのカーテンの役割を考え、その重要性を明らかにする事により、患者のプライバシーを守る看護ケアを考えていきたい。

II 研究方法

アンケート調査

期間) 11月15日～11月22日

対象者) 2人部屋及び6人部屋に入院中の患者44名

調査内容) 無記名回答質問紙法(選択肢及び記述式)

回収率) 84.1%

III 結果

別紙にて報告す

IV 考察

人間は他人に見られたくない。他人に関与されたくないというプライバシーの権利を持っている。しかし、入院生活に於いては他の患者との共同生活を余儀なくされたり、治療や検査、処置等により必ずしもプライバシーが保護されるような環境にあるとはいえない。2から6人部屋が48床中46床を占める当病棟においても例外ではない。プライバシーが保護、尊重されるためには、建物の構造、設備や看護婦のプライバシーに対する感覚と姿勢によるものが大きいといえるが、カーテンの役割はその中の一手段であると考え。

〈表1〉の結果と〈表2〉で17人がカーテンの役割と

してプライバシーの保護を挙げている。また、〈表2〉のイ～オも直接プライバシーという言葉を用いてはいないが、「プライバシーの保護」を意味する結果となっている。

これはカーテンが患者のプライバシーの保護のために必要とされていることを表しているといえる。

村田は入院患者に4つのカテゴリーを以下の様に設定している。1. 身体・行動の秘匿：他人に見られたくない身体部分や行動を他人にみせないでいる。2. 個人情報の非公開：他人に知られたくない過去及び私生活に於ける個人情報の秘密が守られている。3. 自己領域の確保：自分が自由に使える物品や場面を確保し、無断で他人に触られたりしない。4. 監視・干渉の排除と独居：他人の監視や干渉を受けず自由に振る舞うことができる。欲すれば独りでいることができる。

患者は入院生活においてどんな場面でカーテンを必要とするか具体的に知るため、〈表3〉のような質問を行ったところ、「とても必要」「ほとんど必要」という、必要性を強く打ち出した回答が返ってきたのは、ベッド上での排泄(78.4%)自分で体を拭く(73%)着替えをする(73%)であった。これは「身体・行動の秘匿」のためにカーテンが必要であることを示す。

排泄、清潔の保持という最もプライベートである行為を病室内の限られた空間で行うことを余儀なくされた場合、視覚的に遮るものとしてのカーテンの役割は大きく、したがってアンケート結果が示すように必要性は高いと思われる。

「監視・干渉の排除と独居」というカテゴリーから考えると、「自分自身が身体的に辛い時」(51.4%)「精神的に辛い時」(43.2%)と比較的高値である。人は独りでいたいという欲求を持っているが、入院生活を送るうえでの制約や治療等の制約があり、このカテゴリーのプライベートを保護していることがアンケート結果より考えられる。

カーテンの使用における、看護婦の配慮不足を〈表5〉のように指摘された。これらは看護婦のカーテンに対する認識が薄かったため、患者のプライバシーを守り得なかった例といえよう

1981年には「患者の権利宣言」が患者の権利宣言起

草委員会より発表され、患者のプライバシーの権利と保護が明記されている。最近ではインフォーム・ド・コンセントが話題となっており、患者の自分自身に対する権利意識も高まりつつある。看護婦は、患者を一人の人間として尊重し、看護を行っていくためには、看護婦自身が患者のプライバシーの権利を守ることを自覚していかなければならない。患者のプライバシーの権利を守る一手段として、カーテンは看護婦の十分な配慮があれば有効な役割を果たすといえる。

V おわりに

今回のアンケート調査の結果、カーテンが患者の入院生活の中でプライバシー保護のために大きな役割を果たしていることがわかった。患者のプライバシーの保護のために私達は日常看護の援助の中で注意を払っているがプライバシーと言ってもそれを構成する要素は考察で述べた「身体・行動の秘匿」「個人情報の非公開」「自己領域の確保」「監視・干渉の排除と独居」があるが、今回「身体・行動の秘匿」と「監視・干渉の排除と独居」のみがアンケート結果より明らかになっ

たが他の2つについてもカーテンの果たす役割はあると思われる。これについては今後の課題にしていきたい。今回得られた結果を念頭におき、カーテンを有効に使用し、患者のプライバシーを保護する看護ケアを行っていききたいと思う。

最後にこの研究を進めるにあたりご協力下さった、金田主任、スタッフの方々、アンケートに協力して下さった患者さんに深く感謝します。

VI 参考文献

- 1) 波多野梗子他：看護学総編 医学書院
- 2) 寺島好子：「看護婦のプライバシー保護意識の高揚と環境づくり」看護展望 85-11
- 3) 広田伊蘇夫：患者のプライバシーとは 看護展望 85-11
- 4) 村田明子：「現代人のプライバシー意識と病室空間」看護展望 87-3
- 5) 小板橋喜々代：病者の生活行動と看護 看護学叢書 2

アンケート結果

〈別表1〉

〈別表2〉

病室（ベッド周囲）にカーテンは必要だと思いますか。（選択肢）






はい 100 %
いいえ 0 %

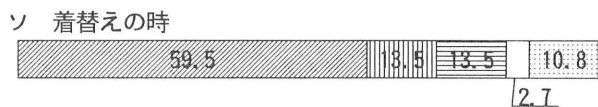
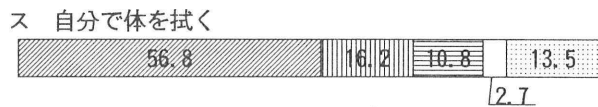
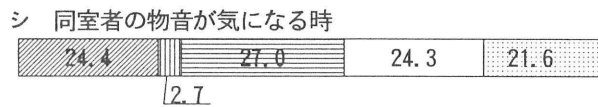
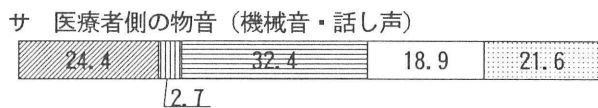
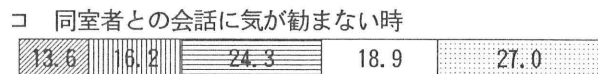
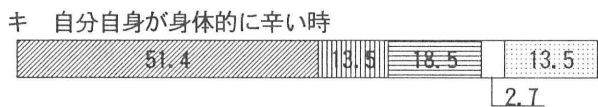
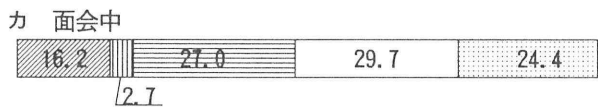
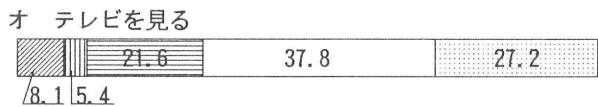
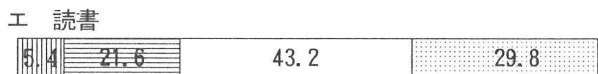
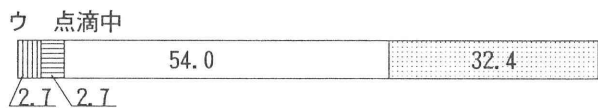
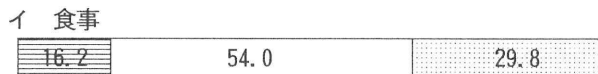
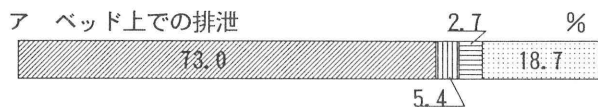
入院生活においてカーテンの役割はどのような事だと思いますか。（記述式）

ア. プライバシーの保護	17人
イ. 診療・処置時に必要なもの	4人
ウ. 着替えの時に必要なもの	4人
エ. ベッド上排泄時に必要なもの	2人
オ. 羞恥心のカバー	1人
カ. 自分の時間と落ち着きの確保	4人
キ. 光・音の防御	2人
ク. 衛生面の確保	1人
ケ. 気分のすぐれない時必要なもの	1人
コ. 同室者に不愉快・迷惑を与えないための手段	1人

〈別表3〉






入院生活においてどのような時にカーテンを必要としますか。4つの中から選んで下さい。

- 1 とても必要  2 ほとんど必要  3 少しは必要 
4 全く必要としない  5 無回答 



〈別表3〉

病室のカーテンを使用する事でプライバシーが守られていると思いますか（選択肢）

- 1 とても守られている 
2 ほとんど守られている 
3 あまり守られていない 
4 まったく守られていない 
5 無回答 



〈別表4〉

入院生活の中で、カーテンの使用に対する看護婦の意識が足りないと感じた時がありますか（選択肢）

- はい 8.1 % いいえ 67.6 %
無回答 24.3 %

〈別表5〉

配慮が足りないと感じたのはどのような場面でしたか。また、その時どのような気持ちでしたか（記述式）

- 回診時にたまために閉めないことがあり、隣室の人の通行が気になる。
○必要があって、カーテンを閉めているのに出ていく時に開けていく。出ていく時は現状通りにしてほしい